

令和 6 年度 園評価書

園番号 9 園名 長沼こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心豊かな たくましい子	自分で感じ	○好きな遊びを見つけ、自分なりに考えたり、工夫したりして遊ぶ	室内外とも選択できる環境、時間の保障をすることでどの子どもも好きなことを見つけよく遊ぶ。子どもの考えや工夫が見られた際、認める声かけをしたり再構成することで子どもたちは更に工夫し自信をもって遊んでいる	A	A	・子ども達が“好きなことを見つけて遊ぶ”という土台がある。それが継続されているのは、環境の工夫があつてのことだと感じる	・保育者は子どもの仲間になって遊び、遊びの様子や子どもの表情をよく見たり、子どもの声に耳を傾け良く聴いたりし、遊びの面白さを捉えていく。そこから考えたり工夫したり、更に面白く展開していくよう環境準備、再構成をしていく ・やってみようとする過程を大切にし、認めを増やしていく。間違えたり失敗しても大丈夫。次こうしてみようと思える援助を考えていく
	自分で考え	○自分の思いや気づいたことを自分なりの言葉や態度、仕草などで表現している	担任以外の職員にも安心感をもち自分を表現できている。友達や保育者に対し言葉で伝えられた場面をその場で認めていくことで自分なりの言葉で思いや気づき等を表現できる子が増えている	A	A	・考えたり工夫をしたりしている子に対して先生方が価値づけをしている	
	自分で選び		子ども達の遊びの中での発見に対して共感したり、図鑑など準備するなど環境を整えたりしている。子どもの“もっとやりたい”“もっと知りたい”の思いにより丁寧に関わったり掘り下げたりしていくには保育者側にも課題が残る	B	B	・探究心の高まりに対し丁寧に関われなかった、掘り下げることでできたのではと先生方で共有できれば次年度に繋がるのではないかと	
	自分で知る						

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	園児との対話的な関わりの中で、保育教諭はいろいろな人・もの・自然とかかわることができるよう教育及び保育をしている	子どもの思いに沿いながら様々な人・もの・自然とのかかわりを意識して保育をしている。園庭にある葉、木の実、砂、土などをはよく取入れたが、近隣の自然をもっと利用するために、自然と関わる意義や意図を職員間で考え、共通意識をもつようにした	A	A	・主体性についてや行っている教育の意図を保護者に伝えていくことが大切だと思う	“季節”を捉える際、今までの概念ではなく、四季の移り変わりを体感し、教育・保育に取り入れていく。自然と関わる面白さや意図を職員間で話し合っていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人ひとりの気持ちを温かく受け止め、健康状態や生活リズムに配慮しながら、安心して園生活が送れるようにしている	保護者との口頭伝達やコドモンでの連絡を丁寧に言ったたり、子どもの“いつもと違う”を見逃さず活動、休息等に配慮している	A	A	・コドモンで保護者が送信してきたことと園側の捉えが違っている、ズレを感じたときはどのようにしているか→コドモンでなく、直接顔を見て話をし共有している	子どもの体や心の健康状態をコドモンや登園時に保護者と顔を合わせ丁寧にやっていく。クラスファイルを使用し、遅早番から担任への連絡を確実にやっていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもが”またやりたい”と思える環境づくりをしている	日常の遊びを取り入れ劇場ごっこ劇遊びを繰り返して楽しんだり、ものづくりが好きなクラスの製作コーナーには子どもが使いたいと思った時使える素材、色んな種類の紙等が取り出しやすくなっていることで毎日継続、発展が見られている	B	B		子ども達のひとつひとつの遊びに思いをもち、環境準備をしていく。正解はないので色々準備し試してみるのも良い
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園児、職員は様々な状況を想定した避難訓練を重ね、命を守るための安全意識を高める	南海トラフ巨大地震を見据え、発生時備えつけのものにつかまる、床に這いつくばるイモリのポーズ・態勢をとる、次に動けそうな所を見極め判断しようとするなどを保育者も意識し、子ども自身もそういう力を身につけていけるよう訓練を重ねている	A	A		避難訓練の年間計画を大幅に見直し、変更する。命を守ることを職員、子ども達が意識し実践できる具体的な内容にする
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	基本的生活習慣、衛生習慣が身につくよう発達に合わせた指導や食育活動を通して子ども達の食への関心を広げていけるようにする	調理員中心に一年通して食育活動が行われ子ども達の興味・関心が広がった。行ったことをコドモンで配信したり掲示することで、保護者の関心もと大きかった。年長児が千代田小学校へ行き、養護教諭による衛生習慣の話を聞く。様々な手洗いの仕方を映像を用いてわかりやすくしていただき、子ども達自身が良い手洗いの仕方に気づいていた。	A	A	・外部の方の指導は子ども達に響くのですね。本物に触れることで子どもの意欲に繋がりますね	子ども達の“食”への関心を広げていけるよう食育活動の継続をしていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	個々の発達を職員間で共有し、理解し合いながら、一人ひとりに合った丁寧な関わりを行う	支援児や配慮が必要な子のあらわれや特性を捉え理解し、その子ども達を含む遅番・早番保育については職員間で何度も何度も検討、体制づくりを整えていった	A	A	・その子を理解しつつ全体のことも考えていかなければならないのは困難も多いと思う→いただいた座卓を使用したことで机上遊びが充実していった	特別支援分掌の定期的な会議を一年継続して行えるようにする。支援児や配慮の必要な子どもについて困難な時は今年度同様、皆で検討・実践していく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	子ども理解の語り合いが行われ、全職員が情報を共有し、連携しながら、子どもの育ちを援助していく	各クラス取り入れているリフレクションタイムでは、子どものエピソードを伝え合うことで遊びの様子、育ちなどを語り合う良い機会になった。	B	B	・リフレクションタイムで子ども達の楽しい姿を共有できるのが良い。小学校は学年を安定させることが全体が落ち着きに繋がるのでそこを大切にしたい	クラスでのリフレクションタイムが効果的だということが実践しわかったので、クラス以外でも何か応用できないか検討する
6 研 修	(1)研修体制の充実	”またやりたい”と思える意欲を育むために、どんな手立て、環境が必要か、職員間で考え実践する	月反省の記録用紙を何度も検討・変更し、当月～次月への繋がりを意識できるようにすることで具体的に準備物や再構成の手立てが明確になり実践に繋がった。	B	B		経験の浅い職員も意識、実践につなげやすい月反省の記録用紙を継続し使用していく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもたちが自分から遊び出したり、片づけた后可以するような環境づくりをしている	園庭の玩具の数やワゴンの写真表示等を見直し精査したことで子ども達がわかりやすくなり、始末しやすくなった。“片づけ”の捉え方に保育者間で食い違いを感じ、再度共通認識するために話をしていた。	B	B	・大人が片づける年齢、全部子ども達で片づける年齢様々ですね。片づけの段階があることを職員間で共通理解することが大切。最後まで片づけてくれる年長児に「ありがとう」を伝えるなども大切なのではないかと	片づけの概念を職員同士で共有しておく。各年齢の例えば、時期(年度当初、途中、後半)等。共通の遊び場については職員同士が声をかけ合うことや、たくさん片づけてくれる年長児にも感謝を伝えていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	お便り、ドキュメンテーション等を活用し、子どもの遊びの中での育ちを保護者へ発信したり、様々な行事や活動を通して、保護者同士を繋ぐ機会としたりしていく	乳児組の連絡ノート、幼児組の保育ボード等コドモンでの配信が本格実施となった。決められた文字数内で“育ち”を伝える難しさを感じながら日々行っている。保護者が顔を合わせ参加する行事の回数は少ないが、繋ぐ機会として大切に内容等考慮し行った。	B	B		保護者を繋ぐ機会(行事)は、保護者同士がコミュニケーションがとれるものになっているかその都度企画を確認し内容の充実を図っていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	公開保育を行い情報共有をしている。また近隣の園、小、中、高と交流する機会を設け連携を深めていく	自園の職員、近隣園の職員も参加した公開保育の事後研修のグループ討議では自身の保育に活かせることを学び合った。0～3歳児が動物との触れ合い、4、5歳児がポップコーン作りを体験させてもらいに行ったり保育体験の中で農高生との温かい関わりを喜んだ	A	A		上土こども園との交流は次年度の年長児の様子、姿を考慮し年間計画を立て、実践していく。小学校との繋がりを一歩前進できるよう、アプローチしていく。夏に公開保育を計画していく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の様々な人との交流を通して、地域に親しみを持って、地域とつながる園づくりを進める	年長児が地域の方に来ていただきしめ縄を教わり正月飾り作りに挑戦した。護国神社では絵馬作りに挑戦し、神社の方、学生に補助してもらいながら干支を描いたり願いを文字にした。新年に神社に参拝にいく家庭もあった。	A	A		交流や体験を通し園の強みである地域の方との繋がりを引き続き大切にしてい